

各区の将来像に関する 区民意見

【目次】

西 区	1
北 区	2
大宮区	3
見沼区	4
中央区	5
桜 区	6
浦和区	7
南 区	8
緑 区	9
岩槻区	10

「西区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・「豊かな自然」が入っているのは良い。
- ・豊かな自然（水と緑と花）と歴史文化を生かすやさしい社会を目指して。
- ・自然と人を思いやるゆとり豊かな生活空間のまち。
- ・現行の将来像はまとまっていると思う。
- ・副題が説明文の内容に含まれているので、削除しても良いと思う。 など

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 安全で、安心して暮らせるまちづくり

- ・オンデマンドバスやコミュニティバスなどネットワークの整備が大事である。
- ・道路整備を進めるとともに、子どもたちの安全な通学路を望む。
- ・歩行者と身障者の安全は急務である。
- ・防災の拠点づくりを行うべきである。
- ・防犯パトロールの充実が必要である。

3 子育てしやすいまちづくり

- ・子ども同士、親同士の交流の場が少ないと感じる。
- ・土曜チャレンジスクール、放課後チャレンジスクールの更なる充実。
- ・留守家庭児童支援活動の充実。
- ・高校生くらいの青少年が利用できる拠点があると良い。

2 活力あるまちづくり

- ・公共施設を線でつなげることで、1年を通じて楽しめるのではないか。
- ・休耕地の活用として地産地消を推進する。
- ・地元の子どもや大人が気軽に集える場所があると良い。
- ・区内の各地域の特色を生かしたまちづくりがあってもよい。

4 高齢者が生き生きと生活できるまちづくり

- ・ボランティア活動者の更なる活動の場づくり。
- ・高齢者の生涯教育の充実と生きがい活動の推進。
- ・子ども、高齢者、障害者の方が気軽に集える場の充実。
- ・家族で楽しめるレクリエーションや軽スポーツの推進。

5 環境と共生したまちづくり

- ・荒川の保全など環境保護は今後も強化して欲しい。
- ・休耕地を利用した自然と触れ合える家庭菜園の推進。

2. アンケート調査（平成24年度）結果の概要

(1) 西区で10年後、20年後に特に残したいもの
(上位3項目)

①豊かな自然	74.2%
②地域コミュニティの温かさ	49.5%
③地産地消のできる環境	36.3%

(2) 10年後、20年後に期待する西区の姿、イメージ
(上位5項目)

①安全で安心して暮らせるまち	68.9%
②交通インフラが整備されたまち	54.2%
③自然環境と共生したまち	48.4%
④高齢者が生き生きと生活できるまち	45.8%
⑤子育てしやすいまち	44.2%

「北区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・北区の特徴があるもの、北区だと思われるものにしたい。
- ・サブタイトルで北区の特徴を出せるとよい。サブタイトルはシンプルな方がよい。
- ・都会でも田舎でもない「ちょうどいい」まち
- ・「ちょうどよいまち」から上を目指したい。「ちょっとよいまち」、「最もよい北区」など

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 安全で安心して元気に暮らせるまちをつくる

- ・これは最も基本的かつ重要なこと。
- ・高齢化に対してはコツコツとみんなで取り組んでいく必要がある。
- ・治安、防犯など安全の確保は大切。
- ・福祉、医療施設の充実。

2 良好な住環境と円滑な交通環境をつくる

- ・都市整備（高層マンションの問題への対応など）が大切。
- ・まず身近な側溝整備などに取り組むべき。
- ・ごみの問題など生活環境は大切。
- ・駅のトイレ・エレベーター設置、道路や交差点の整備、自転車のための環境整備、コミュニティバスの充実が必要。
- ・自転車、車ともにマナーの向上が必要。「交通ルール」を明記するべき。

3 教育・文化の充実とコミュニティの活性化を図り、ふれあいのあるまちをつくる

- ・盆栽は世界的なブランドであり日本の文化。
- ・体育館などスポーツ施設が少ない。
- ・まちづくりの根本は人。地域のコミュニケーション、信頼関係が大切。
- ・地域への関心の向上、住民が交流する場・機会の創出。
- ・自治会役員の高齢化への対応が問題。

4 自然環境の豊かなまちをつくる

- ・見沼用水沿いの散策路での桜の植樹、川の環境整備、水と森のネットワーク形成。
- ・緑のある住宅団地や小公園の整備、人々が集える空き地（公園）が街なかにあるとよい。
- ・区の花の周知が必要。

5 産業の活性化を図り、働きやすい環境をつくる

- ・地元で子育て、学び、働ける自立的な環境づくり
- ・地域資源を大切にするとともに、PRが必要。観光の活性化等の一文を入れてほしい。
- ・育児環境（子どもを預ける場所など）の充実、若者や女性が働ける環境整備が必要。

2. アンケート調査（平成 24 年度）結果の概要

(1) 北区で 10 年後、20 年後に特に残したいもの
(上位 3 項目)

①住みやすさ	59.5%
②豊かな自然（水と緑）	45.7%
③都会でも田舎でもない「ちょうどよいまち」	43.3%

(2) 10 年後、20 年後に期待する北区の姿、イメージ
(上位 6 項目)

①医療・福祉の充実したまち	64.3%
②安全・安心でほっとするまち	51.5%
③子育てがしやすいまち	39.5%
④高齢者の住みやすいまち	39.2%
⑤安全に安心して円滑に移動できる交通環境が整ったまち	37.8%
⑥自然（水と緑）の豊かなまち	37.5%

「大宮区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・氷川神社は大宮区の歴史そのもの。
- ・持続的な発展が地域コミュニティの最大のテーマ。
- ・人が行き交う、交流するといったイメージがあると良い。
- ・商業都市・経済都市といった表現を入れた方が良い。

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 東日本の玄関としてふさわしい、利便性と機能性を兼ね備えた大宮駅周辺のまちづくり

- ・大宮駅東口の開発推進（低層建築、江戸時代の街並みなど）。
- ・大宮駅西口の商業振興。
- ・大宮駅周辺における交通環境の向上等、環境整備。
- ・交通の要衝を生かしたまちづくり。

2 質の高い生活環境と安心して暮らせるまちづくり

- ・防犯・防災活動の推進。
- ・バリアフリー化されたきれいな歩道など、大宮駅近郊の道路整備。
- ・駅周辺における子育て関連施設の整備。
- ・公教育の質向上。

3 氷川神社などの区の魅力の発信と、人の交流が生み出すまちづくり

- ・氷川神社などの歴史文化施設等、区の魅力のPRの強化。
- ・まちの案内の充実や魅力ある観光ルートの整備。
- ・区民が区の魅力を知り、生かす。
- ・市民が自主的に参画している新たなイベントについても盛り込んでほしい。
- ・人と人の関わりや絆の構築や、誰もが参加するコミュニティ。

4 自然環境と調和したうるおいのあるまちづくり

- ・街路樹、見沼代用水沿いの整備。
- ・見沼田圃は都市近郊に残された緑地であり、緑地を守っていくことを強調したい。
- ・街路樹の整備。

2. アンケート調査（平成24年度）結果の概要

(1) 大宮区で10年後、20年後に特に残したいもの
(上位3項目)

①氷川神社	70.4%
②氷川の杜と緑	52.5%
③大宮駅周辺の利便性	47.5%

(2) 10年後、20年後に期待する大宮区の姿、イメージ
(上位5項目)

①災害に強いまち	51.4%
②交通利便性の高いまち	50.6%
③健康に住み続けられるまち	46.7%
④子育て環境の整ったまち	41.6%
⑤緑や水辺環境が豊かなまち	37.8%

「見沼区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・キャッチフレーズ冒頭の「見沼」を残したい。
- ・サブタイトルは、短くインパクトを与える方が良い。
- ・「安全・安心」も加えて、自然とともに安全・安心に暮らせる見沼としても良い。
- ・10年かけて作り上げてきたものを「まもり育てる」という感覚を持った方が良い。
- ・「文化」を入れても良いのではないかな。

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 見沼の自然を生かしたまち

- ・豊かな自然環境（見沼田圃、綾瀬川、ホタルが生息する環境など）の保全とネットワーク化。
- ・自然の中で活動できる環境の整備。
- ・太陽光の活用などによるエコ社会の構築。

2 人にやさしく、ふれあいのあるまち

- ・地域に無関心ではないコミュニティの形成。
- ・介護家庭や高齢者に思いやりのある地域。
- ・あちこちで子供の声が聞こえるまち。
- ・情報共有の必要性。
- ・高齢者や若者もいろいろな行事に参加したり、社会貢献ができる社会。

3 動きやすく、生活しやすいまち

- ・コミュニティバスの路線や運行日の見直し。
- ・立体交差の整備、交通手段の確保
- ・点在するスポーツ施設を活用。
- ・駅周辺のにぎわいの創出。

4 地域ぐるみで進める安全・安心なまち

- ・災害対策の強化。
- ・地域との連携による安全環境の向上。
- ・歩行者や自転車が安心して利用できる道路環境。

2. アンケート調査（平成24年度）結果の概要

(1) 見沼区で10年後、20年後に特に残したいもの
(上位3項目)

①自然環境	57.6%
②生活に便利な公共交通機関	54.8%
③見沼田圃	40.1%

(2) 10年後、20年後に期待する見沼区の姿、イメージ
(上位5項目)

①安心して暮らせるまち	64.0%
②医療環境が充実したまち	58.9%
③安全に暮らせるまちまち	52.5%
④自然豊かなまちまち	46.2%
⑤高齢者や子どもに優しいまち	42.7%

「中央区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

・「新しい文化」とあるが、新都心ができて10年。「新しい」というよりは、「サステイナブル（持続可能な）」などの用語変更が適当ではないか。

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 区の特徴を生かした魅力的な街並みと緑豊かな環境づくり

- ・与野本町通りの街並みの保全。
- ・鴻沼川の桜の充実、与野公園のバラの拡充。
- ・緑などの保全・充実に向けた区民意識の醸成が必要。
- ・まちの美化活動の促進が必要。
- ・自然環境保護の取組の促進が必要。

3 学びと交流を通じた、地域の誇りと愛着を持つ人づくり

- ・地元の歴史・文化を知る機会が不足している。
- ・地域内・世代間のつながりを強化する必要。
- ・旧住民と新住民の意識や心の壁をなくすことが大切。
- ・高齢者が子どもに遊びを教える場づくりをしてほしい。

2 地域資源を生かした、調和のとれたにぎわいづくり

- ・さいたま新都心との関わりと中央区全体のバランスが重要。
- ・商店街の活性化を図る必要があり、人が集まるための環境整備が必要。
- ・区内民間企業の減少しており、若者が地元就業しにくい。

4 ふれあいと支え合いによる、安全・安心と生きがいのある地域づくり

- ・子どもの遊び場や子ども同士のつながりが希薄化している。
- ・安心して子どもを産み育てられる環境の整備してほしい。
- ・高齢者を対象にした犯罪の減少を図る必要。
- ・交通利便性の向上や移動手段の確保が重要。

5 区民との協働による地域に根ざしたまちづくり

- ・公共施設の今後のあり方を検討することが必要。
- ・若者の自治会参加や社会参加を促進すべき。
- ・自治会への加入のメリットや活動の楽しさのPR、無関心層の掘り起こしを図ることが重要。
- ・地域コミュニティの活性化の手段として、イベントの開催が有効。

2. アンケート調査（平成24年度）結果の概要

(1) 中央区で10年後、20年後に特に残したいもの
(上位3項目)

①安心な暮らし	79.7%
②住環境のよさ	66.0%
③草花（桜やバラ）などの自然	43.4%

(2) 10年後、20年後に期待する中央区の姿、イメージ
(上位6項目)

①高齢者にとって住みよいまち	68.4%
②子どもにとっての良好な生活環境が整ったまち	59.9%
③安心して子育てができるまち	54.2%
④地域で互いにか支えあうまち	45.3%
⑤商店街に活気があるまち	35.8%
⑥地域で就業がしやすいまち	31.6%

「桜区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・桜区の特徴を生かした計画になるとよい。
- ・現在の将来像「三世代がつくる元気印のまち」のとおり、地域力を生かしたまちづくりが大切。

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 「自然」と「便利さ」の調和する、住みやすいまちづくり

- ・生活利便性・安全性の向上。
- ・若者が出て行かず、ずっと住みたいとみんなが思える区。
- ・企業誘致に取り組み、若者が地元で働ける環境づくり。
- ・ごみに関する記述は大切。
- ・花・緑のあふれる美しい街、季節ごとに花・畑を散策できる区。自然など地域の特性を生かしたまちづくり。遊休農地の活用。
- ・公共交通や道路・自転車道・歩道の整備の充実と安全性確保。

2 子ども、高齢者、障害者にやさしく、元気に暮らせるまちづくり

- ・子供が安全に遊べるようにする。
- ・「共育」の環境づくり、シルバー世代の子育て世代支援。
- ・チャレンジスクールの充実、埼大生の活用。
- ・充実したスポーツ施設を活用し、元気になる取組の推進。
- ・高齢化社会への対策、高齢者や障害者も安心して暮らせるという視点が必要。

3 みんなが仲良く安全に安心して暮らせるまちづくり 4 みんなでつくるまち

- ・地域力を活かしたまちづくり。交流できる場の充実、交流の活性化。
- ・コミュニティセンターや公民館を初めてでも入りやすく。プラザウエストの更なる活用。
- ・避難場所が遠く、学校単位より小さい単位で検討する必要がある。
- ・高齢者のボランティアを活発にする。
- ・多様な手段による情報発信。市民が発信者になる広報スタイル。埼大生に協力してもらう。

2. アンケート調査（平成 24 年度）結果の概要

(1) 桜区で 10 年後、20 年後に特に残したいもの (上位 3 項目)

①自然に親しめる環境	58.7%
②ゆっくりとした生活しやすい環境	51.0%
③子どもが元気に外で遊べる環境	48.0%

(2) 10 年後、20 年後に期待する桜区の姿、イメージ (上位 7 項目)

①安全で安心なまち	59.7%
②障害者や高齢者にやさしいまち	53.1%
③ずっと住みたいと思えるまち	49.5%
④車がなくても安心して移動できる交通環境の整ったまち	43.4%
⑤生活利便性の高いまち	42.9%
⑥豊かな自然や農地のある美しいまち	42.3%
⑦子育てしやすいまち	40.8%

「浦和区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・サブタイトルを変更したらどうか
⇒ 「ワクワク浦和区 子どもたちの笑顔のまち 私が明日をつくるまち」
⇒ 「協働参画で「住んでいるまち」を「住みよいまち」に」

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 世代や文化、地域を越えた多様な交流のあるコミュニティづくり

- ・シルバー世代の活用と社会参加の促進
- ・誰もが気軽に参加できるコミュニティカフェ
- ・積極的に自ら協力したくなるような魅力ある地域活動組織
- ・人と人をつなぐソフト面での充実

3 東西が連携し、一体性と「にぎわい」のあるまちづくり

- ・浦和駅の西口と東口が一緒になって共通のイベントはできないか
- ・個人商店の活性化のため、イベントを使って盛り上げてほしい
- ・まちの賑わいとは、まちづくりの期待像に連動。その原点は住民自ら関わることである

2 文教都市などの「浦和ブランド」を活用した魅力あるまちづくり

- ・文教都市のブランド力を生かした発展
- ・潜在的な伝統文化について総合的な情報発信が急務
- ・歴史的・由緒ある建造物を積極的に保護する手立てを講ずるべき

4 ひとにやさしい誰もが安心して暮らせるまちづくり

- ・道路の安全対策を促進（歩道や自転車専用道路などを整備）
- ・高齢者と子育て層への支援
- ・公園、駅、公共機関など避難場所の確保が課題である

5 緑豊かな美しい街並みとゆとりある住環境を創出するまちづくり

- ・緑地または緑が多く、ゆったりとしたまち
- ・ストーリーのある街角や通りの創出（駅前や県庁・市役所へつながる通りなどを整備）
- ・景観デザインへの配慮

2. アンケート調査（平成 24 年度）結果の概要

(1) 浦和区で 10 年後、20 年後に特に残したいもの (上位 4 項目)

①落ち着いた暮らせる環境	65.8%
②住みやすさ	55.1%
③教育環境の良さ	35.1%
④子育て環境の良さ	30.2%

(2) 10 年後、20 年後に期待する浦和区の姿、イメージ (上位 6 項目)

①住みやすいまち	67.7%
②医療環境の整ったまち	62.2%
③緑豊かなまち	47.1%
④安全に歩行できるまち	43.4%
⑤防災対策が充実したまち	38.2%
⑥文教のまち	33.8%
⑦シルバー世代が社会参加しているまち	31.4%

「南区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・南区の特徴である「生活の利便性」や「若さ」などの表現を使ってはどうか。
- ・交通に関する利点を強調してみてもどうか。
- ・新旧住民が交流するということを表現できるといい。

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 人と地域が結びつく、活力あふれるまちづくり

- ・余裕教室・空き教室の開放。
- ・団塊世代の知恵と時間を活用し、世代間交流を促進、近隣住民同士の声掛け推進。
- ・新たな住民に対するコミュニティ参加への働きかけ。
- ・ボランティア意識の醸成、行政と区民の協働。

2 子どもから高齢者まで元気に健康で暮らせるまちづくり

- ・地域住民による高齢者のサポート、子どもとの交流。
- ・子どものころから社会参加。
- ・文化教養を高める施設の拡充。

3 安全・安心なまちづくり

- ・自分たちのまちは自分たちで守るという心構え。
- ・空き地などの避難場所の確保。
- ・防災備品の保管に必要な場所の確保。
- ・駅周辺における防犯カメラの設置。

4 自然や歴史を大切にしたい情緒豊かなまちづくり

- ・農地など自然や田舎らしさを残す。
- ・何を残すかは計画して決める。
- ・笹目川の保全活動。
- ・笹目川沿いの歩道の整備。

5 都市環境が整った快適なまちづくり

- ・市民と協働して整備する道路の優先マップを作成。
- ・東西交通の強化、コミュニティバスの利便性の向上。
- ・自転車レーン、歩行空間、一方通行化など生活道路の充実。
- ・生活拠点、商業拠点など、地域の特性に合わせた駅周辺の整備。
- ・地域バランスに配慮したまちづくり。

2. アンケート調査（平成 24 年度）結果の概要

(1) 南区で 10 年後、20 年後に特に残したいもの
(上位 3 項目)

①誰もが安心して歩ける歩道	51.2%
②鉄道の利便性の高いまち	48.8%
③豊かな緑地	43.6%

(2) 10 年後、20 年後に期待する南区の姿、イメージ
(上位 6 項目)

①安心・安全なまち	76.0%
②だれもが住みたいと思うまち	60.1%
③子育て環境の整ったまち	51.7%
④鉄道の利便性の高いまち	48.3%
⑤健康を維持・増進できるまち	40.2%

「緑区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・区の将来像に「ホテル」の表記があるのが良い。
- ・緑区の将来を考える上で、「緑」と「見沼田圃」は外すことはできない。
- ・他区ではホテルが舞うところはないため、ホテルは緑区の財産である。

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 郷土愛を育てるまちづくり

- ・地域が人づくりの役割を果たすこととはとても重要なことだと思う。
- ・核家族化が進んでいるので、地域で世代間交流が進むと良い。
- ・熟練者などの経験の活用、地域の旗振り役の確立。
- ・様々な地域で交流ができる場の実現。

3 自然と共生するまちづくり

- ・農家の方々と協力して、花と緑の緑区をアピールできたら良い。
- ・現在の緑区は自然と都市が共存しているが、このバランスを守っていくことが重要ではないか。
- ・見沼田圃の活用に際して、行政は国、県、市が縦割りであり、行政の連携が必要。

2 生活者に優しいまちづくり

- ・高齢者と子ども達が、公共施設で交流をするようになると良い。
- ・自転車道の整備を積極的に進め、全ての人が安心安全に使える道路整備が重要。
- ・自治会のパトロールで危険個所をチェックし、生活環境の向上につなげたい。

4 生活環境の整ったまちづくり

- ・高齢者の移動手段としても、小さなコミュニティバスやオンデマンドバスは必要。
- ・地域にある広場を行政と自治会が役割分担をし、協力して維持管理している。行政だけで対応する時代ではないと感じる。

5 にぎわいのあるまちづくり

- ・駅をさまざまな活動のできる場所として活用
- ・見沼田圃と併せて、桜をもっとアピールし、外から人を呼び込む取組をしてはどうか。
- ・地域社会の絆の保持や安心安全な地域づくりに必要な施設は今後も検討する必要がある。

2. アンケート調査（平成 24 年度）結果の概要

(1) 緑区で 10 年後、20 年後に特に残したいもの (上位 4 項目)

①豊かな自然	81.6%
②見沼田圃	51.1%
③静かさ	46.2%
④ホテル	31.4%

(2) 10 年後、20 年後に期待する緑区の姿、イメージ (上位 6 項目)

①安心して暮らせるまち	80.3%
②高齢者が暮らしやすいまち	46.6%
③子育てがしやすいまち	43.0%
④緑豊かな街並みのあるまち	34.5%
⑤生活インフラが整ったまち	32.3%
⑤災害への意識が高いまち	32.3%

「岩槻区の将来像」に関する主な区民意見

1. ワークショップ、検討懇話会等での主な意見

(1) 将来像に関する主な意見

- ・新しい文化、新しい岩槻を創造するというのも重要だと思う。古い文化や伝統を守りながら、新しい文化を築いて行けると良い。
- ・今までの良いところを伸ばすことで、新しいものが育っていくのではないか。

(2) 「まちづくりのポイント」に関する主な意見

1 多世代の参加の交流による、区民主役のまちづくり

- ・自治会加入者の減少は、自治会の魅力がなくなっているからではないか。
- ・自治会参加のメリットを浸透させるため、行政による勧誘など必要かもしれない。
- ・子どもの地域に対する愛着心をはぐくむ取組（人形体験、田んぼ作業など）を行うことが必要である。

2 地域資源を生かした、魅力とにぎわいを創出するまちづくり

- ・伝統的な景観や豊かな自然が残されている。
- ・岩槻南部の農業を観光レジャーとして活用するとともに、農家と行政が連携して農業振興を図るべきである。
- ・区役所跡地利用や駅前のまちづくりをどのようにするかが重要である。
- ・若者にとって魅力のあるまちにしていくことが必要である。

3 生活環境の整った、安全・安心で暮らしやすいまちづくり

- ・多世代が元気で健康に過ごすためにも、河川敷でスポーツなどができるよう、環境の整備を行ってほしい。
- ・防犯については、親にも関心を持ってもらい、子ども自身でも防犯に対する意識を持ってもらうことが重要である。
- ・地下鉄7号線の延伸は、岩槻区の発展における大きな事業であり、早期に実現してほしい。
- ・道路及び自転車道の整備が不十分であるとともに、東西の交通が不便である。

2. アンケート調査（平成24年度）結果の概要

(1) 岩槻区で10年後、20年後に特に残したいもの (上位3項目)

①豊かな自然	60.5%
②人形文化	54.9%
③城下町の風情	48.4%

(2) 10年後、20年後に期待する岩槻区の姿、イメージ (上位7項目)

①安全して暮らせるまち	75.8%
②医療環境が整ったまち	67.9%
③自然（緑や水辺）を楽しめるまち	60.0%
④子どもにとっての良好な生活環境が整ったまち	49.8%
⑤歩行や自転車利用を含めた交通環境が整ったまち	46.5%
⑥歴史・文化を楽しめるまち	45.6%
⑦若者にとって魅力あるまち	24.7%